

The 17th Inter National Symposium of Pediatric Neuro-Oncology(ISPNO2016) に参加して

兵庫県立こども病院脳神経外科 河村淳史

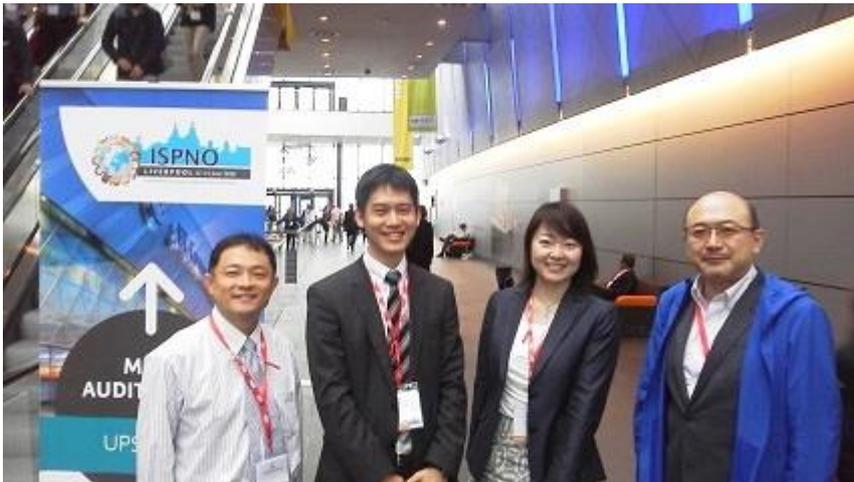
2016年6月12日から15日まで The 17th Inter National Symposium of Pediatric Neuro-Oncology(ISPNO2016)に参加してきました。ISPNOは2年毎に開催される小児脳腫瘍における世界的な学会です。2006年に埼玉医科大学の松谷雅生先生が奈良で主幹なさってから毎回参加して今回で6回目となりました。今回はLiverpool大学、Alder Heyこども病院のBarry Pizer先生が主幹で、開催地のリバプールは世界遺産に指定された非常に伝統のある美しい港町であり、The Beatlesが活動を開始した聖地でもあります。リバプールへの移動はイングランド北部の大都市マンチェスターから鉄道を乗り換えて西海岸へ1時間かかりました。人口46万6千人の街ですが、博物館や美術館が豊富なおうえに2008年から再開発が進み想像以上に新しく魅力的な都市でした。しかし開催期間中は殆どの日が英国特有の雨で、時に激しく雷雨を伴う生憎の天候のため傘があまり役に立たず、殆どが歩いての移動だったのでずぶ濡れの毎日でした。ただ日本の梅雨と違い、最高気温16度、湿度65%でしたが雨のわりに乾燥しており過ごしやすく、また緯度が高く夏至も近いとあって、曇りでありながらもなかなか日が沈まず午後11時頃まで明るい季節での訪問となりました。

プログラムは3日間、朝8時から夕方7時まで開催され、1セッション一つのテーマについて非常に魅力的な基調講演があり、発表が続き総括するという形式で、日本からも30ほどの演題がありました。今回は2007年から改訂した脳腫瘍の新しいWHO分類、髄芽腫の4型分類後の臨床への活用や上衣腫9型分類の評価と臨床、低悪性度神経膠腫の分子生物学的解析と治療、胚細胞腫瘍研究などをメインに、脳神経外科的にはAdvanced imaging and techniques、Convection enhanced drug deliveryの活用など新しい知見に溢れていました。兵庫県立こども病院は今年の5月に神戸の須磨からポートアイランドに移転し、更に2017年度には小児専門の陽子線治療センターを併設することもあり、小児脳腫瘍に対する陽子線治療についてSt Judeこども病院のThomas E. Merchant先生とScripps陽子線治療センターのAndrew Chang先生のMorning seminarを聴講しましたが小児脳腫瘍の治療計画とその優位性など非常に興味深いものでした。最終日午後は現在、第一線で小児脳腫瘍の研究・治療でご活躍なさっている市村幸一先生、寺島慶太先生の中枢性胚細胞腫瘍についてのご講演でしたが欧米諸国とも勝るとも劣らない素晴らしいものでした。今後も我が国は胚細胞腫瘍をはじめとして髄芽腫や上衣腫の臨床研究で今のまま以上に各施設が連携を深める必要があり、All Japan体制の一員として私も更に精進していかなければならないことを痛

感いたしました。また普段、ゆっくりお話しする機会のない先生方とお会いすることができ、現状や今後の小児脳神経外科について歓談する機会を得て大変、楽しい時間を過ごすことができたことを感謝いたします。



会場: Convention Centre, Liverpool



会場にて成育医療センター 寺島先生、山田先生、清谷先生と(撮影:萩原先生)皆様のご好意により掲載許可を頂きました。